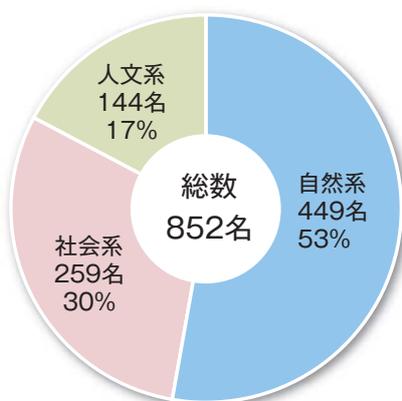


共同研究

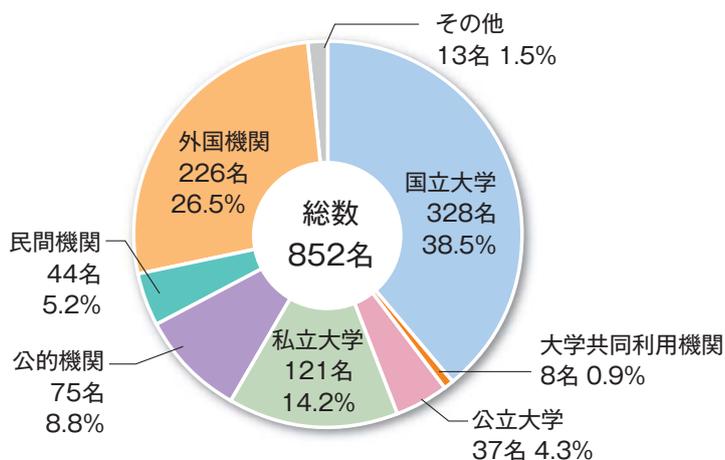
地球研における研究活動は、所内の研究者やスタッフだけでなく、国内外の多くの研究者の協力を得て実施しています。専門分野や年齢、所属の異なる研究者が参加し、共同研究を行なっているのが地球研の大きな特色のひとつです。

地球研は、「知のコモンズ」であるべきだと考えています。そのためには、密接な連携とコミュニケーションが欠かせません。意見や考え方の異なる多様な研究者が、寄り集い、議論を重ね、切磋琢磨しながら総合地球環境学の構築に取り組む「開かれた」研究所をめざしています。

研究分野構成比率（所員除く）



所属機関構成比率（所員除く）



2015年3月31日現在

国内の連携研究機関など

地球研は、2001年に創設されて以降、全国の研究機関などと人事交流をともなう連携を図りながら共同研究を推進しています。

第2期中期目標・中期計画期間においても、より多くの大学や研究機関と積極的に連携を深め、大学共同利用機関としての役割を果たしています。

プロジェクトリーダーを送り出した連携研究機関（法人化前の連携研究機関を含む）

- 1 北海道大学低温科学研究所
- 2 東北大学大学院理学研究科
- 3 東京大学生産技術研究所
- 4 横浜国立大学大学院環境情報研究院
- 5 名古屋大学地球水循環研究センター
- 6 名古屋大学大学院環境学研究科
- 7 京都市立生態学研究センター
- 8 鳥取大学乾燥地研究センター
- 9 琉球大学熱帯生物圏研究センター
- 10 国立民族学博物館



東京大学生産技術研究所と共催した「第5回地球研東京セミナー」
(2014年1月)

また、これら10の連携研究機関以外に、全国13の研究機関や行政機関などと学術交流などに関するさまざまな協定を締結することにより、組織横断的な学術研究の推進や相互の研究および教育の充実・発展に取り組んでいます。

学術交流などに関する協定を締結している研究機関（締結順）

- 1 名古屋大学大学院環境学研究科
- 2 九州大学東アジア環境研究機構
- 3 同志社大学
- 4 長崎大学
- 5 京都産業大学
- 6 鳥取環境大学
- 7 宮城大学
- 8 京都大学
- 9 千葉大学環境リモートセンシング研究センター

学術交流などに関する協定を締結している行政機関など（締結順）

- 1 西条市
- 2 京都市青少年科学センター
- 3 日本穀物検定協会東京分析センター
- 4 農林水産消費安全技術センター



千葉大学環境リモートセンシング研究センターとの学術交流協定を契機に開催された連携構築ワークショップ（2015年3月）



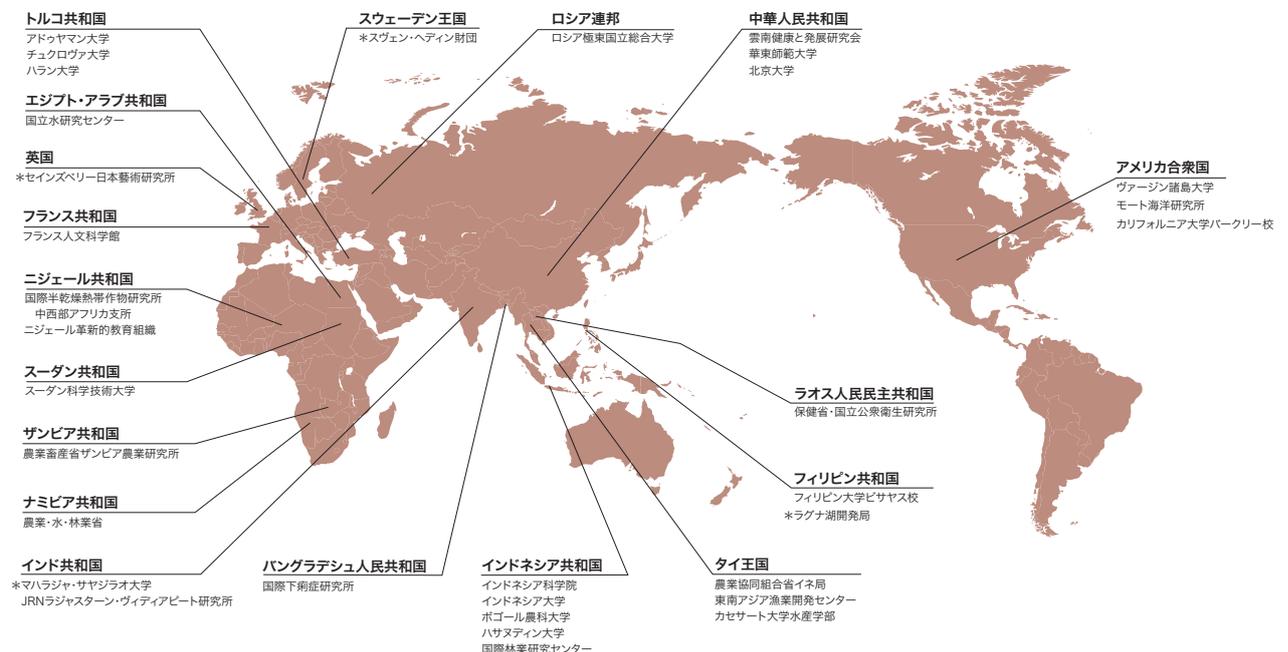
京都市青少年科学センターが実施する「未来のサイエンティスト養成事業 秋冬期講座」に協力し、授業を実施（2015年1月）

海外の連携研究機関

地球研では、海外の研究機関・研究所などとの間で積極的に覚書および研究協力協定を締結し、共同研究の推進、研究資料の共有化、人的交流などを進めています。また、海外の研究者との連携をさらに密にするため、招へい外国人研究員として各国から多数の著名な研究者を招いています。2014年度は、インド、英国、スウェーデン、フィリピンなどの海外の研究機関と4つの覚書または研究協力協定を締結・更新しました。

覚書および研究協力協定の締結（2015年3月31日現在）

*は2014年度に覚書を新たに締結した研究機関

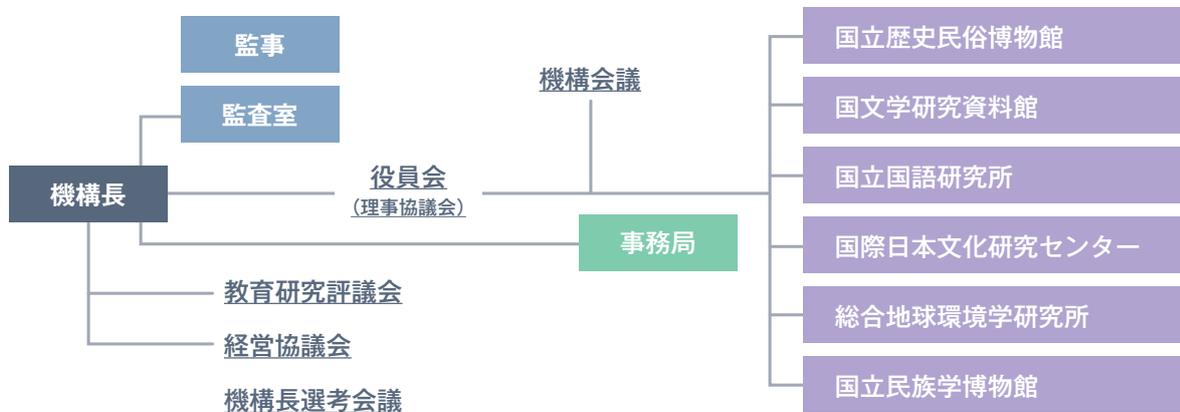


人間文化研究機構のなかの地球研

地球研は、国立大学法人法に基づき、2004年4月1日に設立された大学共同利用機関法人 人間文化研究機構（地球研のほか、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、以下、機構）の一員となりました。

地球研として独自の研究を推進する一方、機構の進める連携研究、研究資源共有化推進事業、地域研究推進事業や、公開講演会・シンポジウムなど、機構が主導する諸事業や共同利用活動に積極的にかかわっています。人文社会系の研究機関が多い機構のなかで、地球研は自然系アプローチを含む統合的な地球環境学の研究を人間文化の問題として位置づけ、重層的かつ多面的な共同研究・共同利用を行なう機関としてその役割を果たしていきます。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構



アジアにおける健康と環境 — 新たな人間と環境との関係性としての「エコヘルス」概念の再構築に向けて

本研究は、第3期における機構の基幹研究プロジェクト（広領域連携型）「アジアにおける『エコヘルス』研究の新展開」の一環として、地球研、国文学研究資料館、国立民族学博物館および国内外の大学・研究機関の研究者が参画し、連携して研究を行なうものです。

昨今のエボラ出血熱の拡大に見られるとおり、WHO（世界保健機関）などによる世界的な取り組みにもかかわらず、感染症の脅威は依然として存在しています。経済・社会のグローバル化と人為的な環境変化が進行するなかで、その脅威はむしろ増大しており、これまでとられてきた、感染症を引き起こす病原体を封じ込めるといった短期的な対策だけではなく、人間社会と病原体との共生を含めた、人類の健康と環境のあり方の長期的な未来像を考える必要があります。

アジア社会における人びとの健康をめぐる状況はさまざまです。経済発展途上の地域では、「二重負担」、すなわち伝統的な感染症と現代的な生活病が同時に存在しています。中国など急速な経済発展が進む地域では、工業化・産業化に起因する汚染による健康被害が問題化される一方で、近代的ライフスタイルに起因する生活習慣病が顕在化しつつあります。日本などの先進地域では高齢化が進むなかで、人びとの健康と医療との関係が問い直されつつあります。こうした状況にある今こそ、「健康である」ということ、あるいは「生きること」の意義といった根源的な問いかけが必要です。



研究会「“健康”の歴史性：「健康」「衛生」概念の歴史の変遷」（2015年1月）

本研究は、「人の健康」を日常の暮らしや生態環境、生業との関わりのなかで考える「エコヘルス」の概念を、人文学の視点から再構築することを目的としています。具体的には、急速な社会変容、環境変化が進むアジア地域（環太平洋・環インド洋）を対象に、その歴史的・文化的背景に注目しながら、人びとの健康と環境との関係について考察しています。

2014年度は予備研究として、国文学研究資料館、国立民族学博物館の研究者および国内外の大学・研究機関の研究者とともに、健康概念をめぐる研究会を開催しました。また、世界におけるエコヘルス研究、健康と環境に関する研究動向の調査、来年度以降のフィールドワークのための準備として、アジア地域（インド・フィリピン）の研究者・研究機関とのネットワーク形成を行ないました。

中国環境問題研究拠点

「グローバル化する中国環境問題と東アジア成熟社会シナリオの模索」



中国甘肃省敦煌市

中国環境問題研究拠点は、現代中国研究のレベルアップや学術研究機関間のネットワークの形成、次世代の研究者養成を目的として機構が実施する地域研究推進事業「現代中国地域研究」の一環として、全国の大学や研究機関に設置された研究組織のひとつです。2007～2011年度の第1期では、地球研のほかに早稲田大学、慶應義塾大学、東京大学、東洋文庫および京都大学に拠点が設置されました。2012年度から始まった第2期では、愛知大学、法政大学、神戸大学が加わりました。

本拠点では、「グローバル化する中国環境問題と東アジア成熟社会シナリオの模索」を研究課題としています。中国を中心とした周辺各国を含む東アジア圏を視野に入れ、今後予想される少子高齢化を考慮し、住民の生活基盤の向上と資源開発・環境保全との両立のあり方を検討しています。

地球研では、中国を対象とした研究プロジェクトを数多く実施してきましたが、現在はすべてが終了しています。このため、本拠点では新たな研究シーズの発掘、協力関係の構築に努めています。2014年7月には、中国・韓国・日本の各大学機関の研究者を招き、国際シンポジウム“The Future of Rural Societies and Landscapes in East Asia”を開催しました。また、2011年度から中国の大学と共同で「地球環境学講座」を継続的に開講しており、2014年度は、北京大学にて学部・大学院生を対象に開催しました。

さらに、地球研の活動だけでなく、中国環境問題にかかわるさまざまな話題を取り上げるニュースレター『天地人』を定期的に発行しています。また、地球研の研究成果を中心に書籍や報告書シリーズを発刊しており、2015年春には北川秀樹・窪田順平編『中国の水資源と環境保全』（白桃書房）を刊行する予定です。



国際シンポジウム“The Future of Rural Societies and Landscapes in East Asia”（2014年7月）



北京大学にて開催した「地球環境学講座」（2015年3月）



『天地人』と RIHN-China Study Series No.3

研究成果の発信

地球研では、研究成果を広く社会に還元するため、一般の方や研究者を対象にしたシンポジウム、フォーラム、セミナーなどのイベントを開催しています。また、総合地球環境学に関するさまざまな刊行物を積極的に出版しています。



第9回地球研国際シンポジウム

地球研国際シンポジウム

地球研の研究成果を世界に発信することを目的として、国内外の研究者コミュニティを対象に年に1回開催しています。その年度に終了する研究プロジェクトの研究発表を中心に、最新の研究活動や海外諸国の地球環境研究の現状を紹介しています。

	テーマ	開催日	場所
第9回	明日のメガシティ——都市と地球環境の未来可能性	2014年 6月25日～27日	地球研講演室
第10回	未定	2015年 6月17日～19日	地球研講演室



第13回地球研フォーラム

地球研フォーラム

地球研の理念や研究成果に基づいて、地球環境問題について幅広い提起やディスカッションを行なうことを目的に、年に1回開催しています。

	テーマ	開催日	場所
第13回	地球環境をどうデザインするか？	2014年7月12日	国立京都国際会館



第58回地球研市民セミナー

地球研市民セミナー

地球研の研究成果や地球環境問題の動向をわかりやすく一般の方に紹介することを目的に、地球研または京都市内の会場において定期的に開催しています。専門用語や難しい概念を使用せず、環境の大切さを伝えるよう努めています。

	テーマ	開催日	講演者
第58回	平家は騒っていたから減んだのか？—樹木年輪からの解答	2014年7月18日	中塚 武（地球研教授）
第59回	より深く珈琲とチョコレートを味わうために—生産地と消費地をつなぐ	2014年9月19日	吉野慶一（Dari K 株式会社代表取締役）
第60回	花街のおかあさんに聞く—環境問題と京の衣食住	2014年10月17日	今井貴美子（上七軒「大文字」女将）
第61回	高校生とともに考える「京・街・環境」	2015年2月12日	京都府立洛北高校生



第60回地球研市民セミナー

地球研地域連携セミナー

世界や日本の各地域で共通する地球環境問題の根底を探り、解決のための方法を考えていくことを目的に、各地域の大学や研究機関、行政などと連携してセミナーを開催しています。

	テーマ	開催日	場所
第14回	地域の未来可能性—農村に生きることの豊かさ	2015年2月15日	大分県宇佐市



第14回地球研地域連携セミナー

地球研東京セミナー

地球研の研究成果と今後のさらなる進展について、国内の研究者コミュニティや一般の方に理解と協力を呼びかけていくため、東京でのセミナーを開催しています。

	テーマ	開催日	場所
第6回	環境問題は昔からあった—過去から見える未来	2015年1月16日	有楽町朝日ホール



第6回地球研東京セミナー

地球研オープンハウス

2011年度から、広く地域の方々との交流を深めるために、地球研の施設や研究内容を紹介するオープンハウスを開催しています。各プロジェクト研究室でのイベント、キッズセミナーやクイズラリー、実験室見学ツアーなど、地球研を身近に感じていただくための企画を実施しています。

	開催日	場所
2014年度 地球研オープンハウス	2014年8月1日	地球研
2015年度 地球研オープンハウス	2015年7月31日	地球研



2014年度地球研オープンハウス プロジェクト研究室でのイベントのようす



第5回地球研キッズセミナー



2014年度地球研オープンハウス 実験室見学ツアーのようす



第6回KYOTO地球環境の殿堂 表彰式にてあいさつを述べる
畠山重篤氏

KYOTO地球環境の殿堂

「京都議定書」誕生の地である京都の名のもと、世界で地球環境の保全に多大な貢献をした方の功績を称えています。その功績を永く後世に引き継ぎ、京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人びとの意志の共有と取り組みの推進を目的としています。本顕彰は、「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会（京都府、京都市、京都商工会議所、環境省、国際高等研究所、国立京都国際会館、地球研）が中心となり、環境分野の専門家、学識者、活動家などで構成する選考委員会で選考されます。

	殿堂入り者	職 位	業 績
第 6 回	畠山 重篤 氏	NPO 法人「森は海の恋人」理事長	20年以上にわたり漁民による広葉樹の植林活動を続けるなど、森林の育成や林業の健全な発展に貢献



第 6 回京都環境文化学術フォーラム

京都環境文化学術フォーラム

地球温暖化をはじめとする地球環境問題を解決するため、京都府、京都市、京都大学、京都府立大学などとともに、環境・経済・文化などの分野にわたる国際的な学術会議を2009年度から開催しています。「京都地球環境の日(2月16日)」の記念行事と位置づけ、「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式と同時に開催しています。



地球研セミナー

日文研・地球研合同シンポジウム

人間文化研究機構における新しい人間文化研究の可能性として、日本文化の研究が地球環境問題にいかなる貢献をすることができるかについて提案することを目的としています。

地球研セミナー

地球研に滞在中の招へい外国人研究員が主に講師となって、地球環境問題に関する最新の話題と研究動向を共有し、広い視座から地球環境学をとらえようとする公開セミナーです。

談話会セミナー

原則月2回、昼休憩を利用して行なうランチセミナーです。地球研の若手研究者が中心となって、各自の研究背景をふまえた話題を提供し、研究者相互の理解と交流を深めています。



談話会セミナー

刊行物

地球研叢書

地球研の研究成果を学問的にわかりやすく紹介する出版物です。

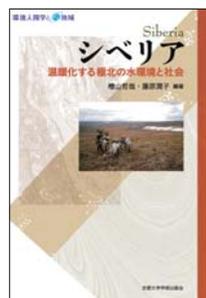
タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
五感／五環—文化が生まれるとき	阿部 健一 監修	昭和堂	2015年3月
人は火山に何をみるのか—環境と記憶／歴史	寺田 匡宏 著	昭和堂	2015年3月



地球研和文学術叢書

地球研の研究成果を研究者に向けて発信する出版物です。

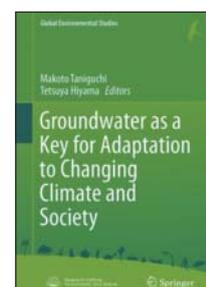
タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
環境人間学と地域シベリア—温暖化する極北の水環境と社会	檜山 哲哉、藤原 潤子 編著	京都大学 学術出版会	2015年3月



地球研英文叢書

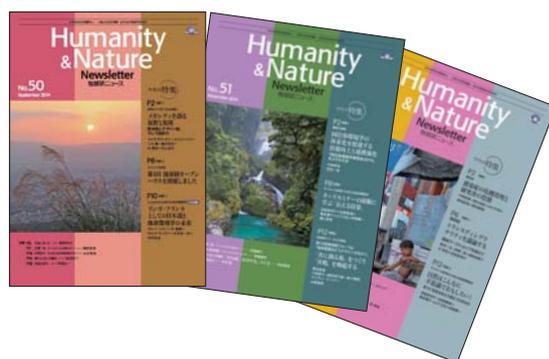
地球研の研究成果を国際社会に向け広く発信する、英文での出版物です。

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
Groundwater as a Key for Adaptation to Changing Climate and Society	谷口 真人、檜山 哲哉 編	Springer	2014年 7月
Social-Ecological Systems in Transition	酒井 章子、梅津千恵子 編	Springer	2014年 8月



地球研ニュース (Humanity & Nature Newsletter)

地球研として何を考えているのか、またどのような所員がいて、いかなる研究活動をしているのかなどの最新情報を、研究者コミュニティに向けて発信するもので、隔月で刊行しています。特に、地球研にかかわっている国内外の研究者を対象に、コミュニケーションの場のひとつとして機能することをめざしています。



その他

地球研では上記のほか、多様な刊行物を出版しています。たとえば、研究プロジェクトで取り入れている多様な地球環境学の研究手法を、大学生や自治体、研究者にわかりやすく紹介する『地球環境学マニュアル1—共同研究のすすめ』、『地球環境学マニュアル2—はかる・みせる・読みとく』や、さまざまな分野にまたがる研究プロジェクトの成果を事典という形でまとめた『地球環境学事典』があります。

